

「つながり」のカタチを創りたい!!

重ねた経験と本が笑顔につながる 高橋 美江さん



守山商工会議所青年部 理事、市観光物産協会 理事、経営者、講演会講師。最近ではヤングケアラーだった子どもの頃の経験も発信するようになりました。今回は、多方面で活躍する高橋美江さん(川田町)取材しました。



美容師、まちづくり、講師
元気を創る活動をしたい

高橋 美江さんは美容室と住宅民泊の経営者で、守山商工会議所青年部と市観光物産協会の理事を務めています。

「コロナ禍の自粛で疲れ、元気をなくしたまちや店、市民を元気づけようと、市観光物産協会と行政が連携して展開した「ROOT for PEOPLE」(令和元年〜2年の発起人になり、市内在住のアーティストが描いた、明るい花をモチーフにしたイラストのフラッグを公共施設に飾ったり、プリントしたTシャツ販売でチャリティー活動をしたり、困窮者に弁当を配ったり、さまざまな活動をしました。

それ以外にも、市内中学校などでの職業講話講演会講師(起業セミナー、ヤングケアラーについての講演など、精力的に活動をしています。

重ねた経験が力になり、
さまざまな活動で未来を豊かに

今こそ明るくて元気で積極的な高橋さんですが、子どもの

「やりたいこと」を見つけたい
子どもたちに伝えたいこと

美容師は、ヘアスタイルとともに相手が居心地良い空間を作ることが仕事です。

住宅民泊の経営を始めたのも、初めて海外へ一人旅をして不安な時、地元の人たちに助けられたから。「私も、安心してワクワクできる旅先での家族になりたい」と考えたからなんです。

内から湧き上がる「やりたい」を形にしながらアラフォー世代を迎え、さまざまな人生経験の生々さが消えて自分を客観的に見られるようになり、高橋さんは4、5年前から「自分の思いを発信することも、誰かのためになるのかな」と思うようになったと言います。

小中学校で職業講話をする時は、美容師になったきっかけや働くことの楽しさなど、いろいろな話題で児童生徒の興味を引きつけます。小さな子どもの「ウルトラマンになりたい」や「ケーキ屋さんになりたい」と、中学生、大学生、大人と、成長に伴って心に描く夢や目標が変わっていくのは当然。それでも高橋さん自身、自分の重

ころは、障害のある両親を支えるヤングケアラー(当時はそんな言葉もありませんでした)で、両親を含め周囲の大人から押しつけられた道徳観に押しつぶされそうな辛い経験もしてきたそうです。そんな高橋さんを救ってくれたのが「美容師になる夢」と「本」でした。

高橋さんが美容師を夢見るようになったのは、小学生の時に近所の美容室は、来る人がキレイになって「明日からも頑張ろう」と前向きな気持ちになれる場所。子ども心に「人をキレイにして喜んでもらえる。私もなりたい」と思ったそうです。

それから美容師になる夢をかなえ、28歳の時に独立しました。辛いことがあっても、「本」の世界で登場人物になりきったり物語を楽しんだりして、過ごしてきたといいます。

高橋さんにとっては、経験を重ねること「本が人生を豊かにしてくれるものでした。だから、いろいろな活動に参加してさまざまな「つながり」を創ることで、多くの人の笑顔に出会い、まちの未来も豊かにできれば、と考えているそうです。

重ねた経験に救われたことから、子どもたちにも「怖がらずに、やりたいことを実現してほしい」と伝えたいそうです。

ヤングケアラーをテーマに、子どものころの話をするようになったのも、誰かに「私もそうなのかな」と気付きや疑問を持つといいと、伝えたいからだと思います。

自分の「やりたい」を重ねて
いつか人生をまとめた

高橋さんは「これまでの人生で何もかもが順風満帆で生きてきたわけではないけれど、『自分がしてほしい』という思いが、いろいろな活動をする原点です」と話していました。

高橋さんは守山のまちで暮らし、働きながら、人とまち、人と人、人と夢など「つながり」を創るための「あれやりたい」「これやりたい」を自分の中に見つけ、それを夢にして毎日を生き生きと過ごしています。

本が大好きな高橋さんは「これからも経験を重ね、いつか自叙伝のようなエッセーを執筆してみたい」と話していました。